

一般社団法人

子ども村ホッとステーション

2022年度
事業報告書



目次

- 01 ごあいさつ
- 02 子ども村:ふあみ〜る 子育て交流サロン
- 04 子ども村:ユニバーサルステーション
- 06 子ども村:放課後クラブ
- 07 アウトリーチ2022
- 08 子ども村:中高生ホッとステーション
- 10 「食を通じた支援のつなぎ方のみえる化事業」実施報告
- 12 データでみつめる子ども村
- 13 たくさんの応援に感謝して

3つのプログラム



ふあみ〜る

子育て交流サロン

【活動日】火・金・土曜日

【時 間】10:00～15:00



多世代共生のための居場所 ユニバーサルステーション 放課後クラブ

【活動日】月・水・木曜日

【時 間】

(多世代) 10:00～14:00

(放課後クラブ) 17:00～19:00

※木曜日を除く



子どもの居場所 中高生 ホッとステーション

【活動日】木曜日

【時 間】17:00～20:00

※アウトリーチ活動／随時



家族まるごとの支援を

【 コロナ禍の活動 】

コロナ禍で閉ざされていた世界が少しずつ解放されてきました。

一般社団法人子ども村ホッとステーションではこれまでスタッフ達がコロナ感染状況を見ながら、その都度スタッフ達で話し合い、子どもの目線を持ち、どのようなことを今できるのか、子ども達が何を求めているのかを考え活動してきました。その結果、コロナ禍であっても歩みを止めることなく、活動を継続することができました。

【 家族まるごとの支援 】



コロナ禍では、子どもだけでなく家族も孤立がちなになりました。そして、家族まるごとをサポートする目線が必要になってきました。

子どもの生活環境は、家庭での環境が大きな要素となります。保護者、兄弟の様子も含めたすべてが子ども達の環境となります。

そのため、家族の様子が安定してくると子どもも安心して生活できるようになり、様子も変わってきます。

子ども村ホッとステーションでは、赤ちゃんから高齢者までの多世代の家族まるごとの支援をしています。地域での民間の活動だからこそできることだと思います。今後、この多世代の支援活動を継続するために、是非安定した行政の支援を願っています。



▲ 中学3年H君撮影



【 子どもの成長と共に・・・ 】

「ふぁみ～る」の子育て交流サロンで対応する0歳から3歳の時期は、子どもが本当に大きな成長をする時期ですが、「ユニバーサルステーション」「中高生ホッとステーション」で対応する学童期、青年期の子ども達も毎日1ミリずつでも成長していますし、子ども自身が心のどこかで前に進みたいと思っています。その気持ちが出せないまま、今を諦めてしまっている子ども達が沢山います。また、友達が欲しいのに、コミュニケーションが上手く取れずになかなか作れない子どももいます。勉強がわかるようになりたいのに、わからないところの質問ができずに学習を諦めてしまっている子もいます。

そんな子ども達にも寄り添いながら、今後も子ども達との成長の毎日を刻んでいきたいと思っています。



一般社団法人 子ども村ホッとステーション

代表理事 大村みさ子



＼ 子育て交流サロン ＼

ふぁみーる



2022年度の活動状況

【開室日】毎週 火曜日／金曜日／土曜日

【参加数の変更について】

期間	コロナ禍 4月～5月26日	5月27日以降
10:00～11:20	3組	6組
11:50～12:10	3組	6組
12:40～15:00	3組	6組

【開室日数】149日

【参加延人数】子ども：1635名／保護者：1592名

＼ お母さん達の声 ＼

「自宅から歩いて行けるとところに子育て交流サロンがあって、荒川区に住んで本当に良かった!」とお母さん達が口をそろえて言います。

「実家のようなところ」「あったかく迎えてくれるところ」「子ども達と一緒に遊んでくれる」「お茶を飲んでホッと一息つける」など、うれしい声を聞きます。3月末になると、ほとんどの子ども達は、保育園入園を迎えます。育児休暇を終え、1歳児クラスに入園です。「この場所があったから、安心して子育てができ感謝している」という声にスタッフも元気をもらいます。

地域のソーシャルファミリーに

子ども達の健やかな成長を地域みんなで支えたい。「地域のソーシャルファミリーをつくりたい」を目指して令和3年4月にオープン。まる2年が経ち、みなさんに周知されてきました。4月5月は、コロナ感染予防のため3回の時間帯の参加組数が3組でしたが、やっと各6組となり、親子で賑やかな遊びの時間を過ごしています。



ここに来るとホッと一息つくことができる、

子ども達が楽しく遊ぶ!



「親子でホッとできる居場所」をモットーに、お母さん、お父さんはちょっとお茶を飲んで一息をつけるように。子ども達は、成長にあわせた国内外の様々なおもちゃで楽しく遊ぶことができるように、スタッフ・ボランティアと一緒に遊ぶサポートをしています。

生後3か月くらいから遊びに来て、寝返り、ずりばい、はいはい、つかまり立ち、あんよと成長する子ども達。人見知り、場所見知りから、スタッフに慣れ、お母さん達から離れて遊ぶようになる子ども達。一人ひとりの子ども達の成長に、保護者と一緒に喜びを感じる毎日です。



助産師さんによるおしゃべり相談

年間：49回 / 参加人数：保護者158名

恵美須文枝さんからのメッセージ

コロナ夜明け前のこの一年

2022年度が終わる時期に、やっと3年間の我慢に一区切りつきました、と言ってもまだまだ用心は必要です。

子育てサロン「ふぁみーる」は、たくさん子どもや大人が行き交う場所として、毎日手洗いとおもちゃの消毒を心がけてきました。この間に、私達の抵抗力も付いてきました

し、日常生活で清潔を心がける大切さが習慣化しました。そして何より、日頃の生活のなかで、強い抵抗力をつけるための心と体の大切さを学びました。お母さんの元気はすなわち、子どもの元気です。これからのふぁみーるの活動でも、まずはお母さん自身が健康で安心して子育てができるように、スタッフと共に元気に遊ぶ子どもの姿を眺めながらゆっくりお茶を飲んで、お母さんの心のゆとりを作ってもらう場所にするために、スタッフ全員で努力してゆきます。





パパママカメラマン！

季節の壁掛けアート from ilona

年間：48回／参加人数：子ども388名 保護者378名

季節を楽しむ壁掛けアートの前で、自由に撮影できるイベントを毎月行っています。春は菜の花畑、夏はひまわり、秋は田んぼの風景やお月見、冬はクリスマスやかまくらなど、季節を感じるアートを布の風合いを活かして制作しています。アートに合わせて、コスチュームを着て遊びに来てくれるお子さんも！月齢を表記して子ども達の成長記録として残すことができ、毎月欠かさず参加して下さる親子がたくさんいらっしゃいます。



下町紙芝居の会 ～わらべ歌と紙芝居

年間：24回／参加人数：子ども215名 保護者214名

毎月第1・3金曜日、下町紙芝居の会のボランティアさんが子ども達のために、わらべ歌遊びと、親子で楽しめる乳児向けの紙芝居を上演してくれます。子ども達は、紙芝居舞台に興味しんしん。そばまでとことこ行って舞台の窓を閉めたり開けたりしますが、成長とともにお話を楽しめるようになっていきます。



土曜日には、お父さんも参加！

● 毎月第1土曜日

パパとママも簡単手作りおもちゃにチャレンジ！

年間：12回／参加人数：子ども130名 保護者120名

紙皿、紙コップ、ペットボトル、風船などを使用し、赤ちゃんが楽しめる簡単にできるおもちゃづくりをしました。



● 毎月第2土曜日

パパとママも一緒に親子で音楽遊び

年間：11回／参加人数：子ども130名 保護者132名

毎月第2土曜日には、赤ちゃん達とお母さん、お父さんと音楽を楽しんでいます。

毎回、保護者の方々に向けて安らぎの一時となるよう、ピアノの小曲のミニコンサートから始まります。手遊び歌に引き続き、歩いたり、走ったり、保護者の膝でだっこされたりしながら、音楽にあわせてリトミックスカーフを振り回したり、体を動かします。子ども達に覚えて欲しい童謡や唱歌、保護者の方に歌って欲しい子守歌も皆さんで歌います。0歳から3歳までの幅広い年齢の子どもと保護者の方々が対象ですが、日常でもいろいろな音楽をもっと楽しんで欲しいと思います。



ふぁみーるで大人のための朗読

年間：11回／参加人数：保護者125名

視覚が不自由な方への情報保証を目的にしたボランティア「音訳」を長く続けてきた大貫さん。

子育て中の暮らしのなかでは、読書時間がなかなかとれません。活字を読むことが少なくなっているお母さん達に少しでも違う世界を味わえるように、短くてほっとできるような共感できるようなお話を心がけています。子ども達と同じ空間にいて、耳だけ貸してくださればいつもと違う気持ちを味わっていただけるのではないかと考えています。リクエストは大歓迎！



みんな大好き！れい子さんの歌遊び手遊び

年間：85回／参加人数：子ども799名 保護者789名

現役保育士さんのれい子さんは、毎週2回、ボランティアで子ども達の遊び相手、親達の相談相手です。

おもちゃでたっぷり遊んだあとは、「♪はじまるよ はじまるよ」の歌で、れい子さんの周りに親子で集まります。

ペープサート「だるまさんが」「こんこんくしゃん」、パネルシアター「カレーライス」「お弁当バス」、手遊び「野菜のうた」「パンのうた」、一人ひとりに「にほんばしこちょこちょ」で終わります。毎回くりかえし取り組むことで、子ども達が手遊びを覚え、少しずつできるようになり、みんなに「すごい、上手、できた!」とほめられると、自慢げです。お母さんもうれしそうです。れい子さんが来るのを心待ちにしている子ども達です。



季節行事を楽しみました！

子どもの日、七夕まつり、クリスマス会、節分、ひなまつりお茶会など、季節行事をみんなで楽しみました。

参加者延数
244名

たくさんのボランティアさんが参加してくれました！

コロナ禍、感染予防をしながら地域の多世代のボランティアの受け入れをし、子ども達と遊ぶ、おもちゃの消毒、清掃等を手伝うなど、子どもや保護者との交流を図りました。

- 小学生、中学生高校生、大学生、若者のボランティア
・・・年間延数105名
- 認知症高齢者グループホームに入居する
高齢者や地域の高齢者ボランティア・・・年間13名
- 社会人等のボランティア ……………延数126名



＼ 多世代共生のための居場所 ／

ユニバーサルステーション

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

ユニバーサルステーションは今年で3年目を迎えました。丁度コロナ禍で難しい時期でしたが、それでも活動を続けました。基本の感染症対策をとりながらも、活動をストップするのが一番安心という空気が流れるなか、「今まで通り」とはなくなった食事時間では子ども達は仕切り越しに黙食、人との距離感をとりながらの運営が続けられました。

月曜日・水曜日・木曜日の午前10時～午後2時までは多世代タイム、午後5時～午後7時は放課後クラブがあります。不登校の子ども達やひきこもり当事者の方達や、高齢者の方々まで多世代の居場所にもなっています。

バジル作業からラベンダーのポプリづくりへ

大人のみなさんは、ボランティア「お互いさま」の関係づくりを大事にしながら、様々な活動に取り組んでいます。子ども村ホッとステーションの活動経費のサポートにしようと取り組んでいたバジル作業が令和4年9月に終了したため、ラベンダーのポプリづくりを始めました。ポプリの袋を裁断する人、縫う人、ラベンダーを袋に入れる人、リボンをかける人、ポプリと活動紹介のしおりづくりをする人、しおりとでき上がったポプリを袋に入れる人、ありがとうシールを貼る人など、自分の得意とする作業を分担し、完成させます。完成したポプリは活動応援募金や、ご寄付をいただいた方々にお礼として使います。和気藹々とおしゃべりをしながら取り組んでいます。



ランドセルのリユースのお手伝い



あらかわ子ども応援ネットワークの仲間であり子どもの居場所づくりに取り組む「こども食堂サザンクロス」では、小学校卒業後、思い出が詰まったランドセルの寄付を受け入れ、きれいに磨いて必要な子ども達にリユースし、リレーする「ぐるぐるランド」に取り組んでいます。毎週木曜日の午前中は、ランドセル磨きのお手伝いに取り組んでいます。

学習と遊び

子ども達は現在できることから、少しずつ学習を進めています。特に、算数・数学は「わかった」が子ども達の達成感にも繋がりますし、将来高校入試の時の数学の理解にも繋がります。

机下の秘密基地で遊ぶ3人



参加の子ども達：不登校支援

ユニバーサルステーションには学校に行かない子、行く事ができない子が参加しています。当日の朝の様子で学校に行くのか、ホッとステーションに行くのか、家で過ごすのかという選択で、ホッとステーションのLINEにそれぞれの子どもや保護者から連絡が入ります。

ホッとステーションでは、「学校に自分の席がある」、「どこに居ても学習をする」と言うことを大事にしています。そして、一番軸になるのは、「子ども達の人生の中で、将来どのような方向を向いていくのかを探る」ことです。将来は自分の好きな、得意なジャンルの仕事をする人になって欲しいと思います。それが一番頑張れる、一番幸せになれる道だと思います。「自分の得意なことは何か」、「好きなことは何か」を聞かれても、すぐに答えられる子は少ないです。「ゲームが好き」と言っても、作るのが好きか、ゲームをするのが好きか、SNSに関係することが好きなのか、専門家になれるそうか等が問題となります。ホッとステーションで過ごす時間は、「もっと間口を広くして、自分をいろいろな角度から見つめてみる時間」であると思います。

天気の良い日は
外遊びも



そして学校に席があり、学校を通じて進学をしていくので、学校との関係もそれぞれの子ども様子により少しずつ繋がっていきます。

1週間に1日か、3日か、または1学期に1回なのか学校に行き、担任の先生と話し、学校の様子を知るように子ども達に促しています。彼らにとり小学生生活、中学生生活は一生に1度のもので、その印象を少しでも楽しいものにしたいと思っています。

様々な活動

子ども達にいろいろな体験をさせることも大事なことです。そのため、調理や音楽の講座、英会話、書道講座などを毎月のプログラムに入れています。その他にも活動場所から出かけ、公園に行ったり、子どものお店屋さん、サイクリングなど、子ども達がやってみたいことを後押ししています。

音楽教室

聴ける!歌える!
歌謡サロンは月に2回開催。



みんなでごはんづくり

ごはんづくりは月に1回、
第3水曜日参加者全員で行
われます。



お習字教室

月に1回第1水曜日、
参加者は自由にお習
字を体験することがで
きます。



紙芝居

「東京下町紙芝居の会」有志のみ
なさまには、多世代に向け幅広い内
容の紙芝居を毎月2回披露してい
だいています。

囲碁

囲碁・将棋は子ども達の間で静かな
ブームになっています。

リアルすごろく

墨田区のスカイツリーを目
指し、チェックポイントを探し
ながら得点とゴールまでの時
間を歩いて競い合いました。



東京タワー&水上バスツアー

子どもたちの企画で、
高さ333メートルの東京
タワーに階段を歩いて
挑戦するグループとエス
カレーターグループに分
かれて目指しました。



一日店長

子ども達の企画で、
ジュース屋、チョコバナ
ナ屋、プラレールで回
るお寿司屋を実施しま
した。驚くくらいに参加
した子ども達全員が活
き活きと活動をしていま
した。



みんなで

＼お店屋さん／

海を目指すツーリング

海が見えるところまで自
転車で行ってみたいとい
う子ども達の要望で、荒川土
手から葛西臨海公園の海
をめざしました。



「尾久の原アートフェスティバル」に 「ソーシャルファミリー」の人形を製作して参加

子ども村ホッとステーションが設立より掲げている活動の軸である「ソーシャ
ルファミリー（血縁関係のない家族）」を、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、お
兄ちゃん、赤ちゃん、近所のおじいちゃん、おばあちゃん、として7体の人形を
作製しました。展示当日はホッとステーションに参加している子どもも大人も
展示の人形と一緒に交じり、みんなで野外展示の作品の一部となりました。

製作した人形と並んで
作品の一部に





放課後クラブ

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

放課後クラブとは？

【主旨】 学校で居場所をつくりにくい子、家で一人で過ごす子達に放課後の時間、1日の終わりの時間に居場所作りをしています。そのような子達にとって1日の終わりに、いろいろなことがありながらも「楽しかった」「明日も頑張ろう」と思えるような居場所であることを願っています。

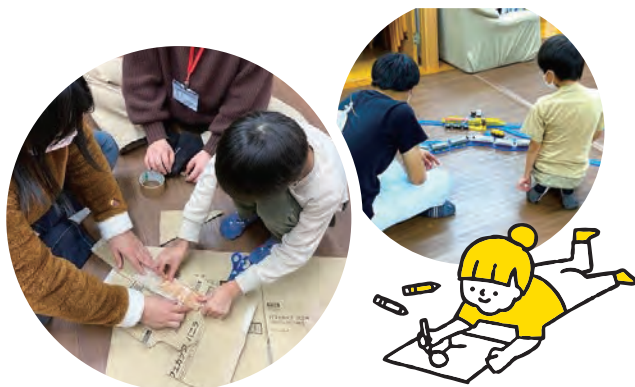
【開催日】 月・水曜日／17時～19時
※長期休みは昼間の時間帯に変更になります。

【対象】 ・学習が苦手な子
・なかなか居場所の見つからない子
・自宅で1人で居ることが多い子



01 遊びの場

遊びの気分はその日によって様々です。1人で黙々と何かをしたい日もあれば、何もしたくない日、他の子と一緒に同じ遊びを通して楽しさを共有したい日もあります。その時々の中で、その子がその子らしく過ごすことができるように遊び、気持ちをサポートします。



02 学習サポート

学校の宿題や、これまで分からなかった所をそれぞれスタッフと共に学習し、その子の中の「分かった」「ここまででできる」を広げていっています。



03 軽食の提供

家で1人でご飯を食べている子、食事が遅くなる子達がいいます。そこで夜ご飯として軽食を提供しています。皆一緒にホッとご飯を楽しく食べています。

調理スタッフが作ってくださった料理の配膳などの準備、食事、片付けを通して誰かと時間を共有する楽しさがあります。



保護者の感想

6月後半から全く学校に通えなくなった息子は10月初めにホッとステーションに見学に行き、実際通えるようになったのは11月の後半からでした。人も多く人間関係に自信がなくなっていた息子には最初少しハードルが高かったようです。ですが行けば楽しく、おいしい食事が食べられることが息子を行く気にさせてくれました。親として色々な人と話して過ごす日が週の何日かでもあることは本当に嬉しい。そして代表の大村さんの子どもを見る目は優しく的確なので、とても頼りにしています。素晴らしい居場所に出会えて本当に良かったです。(小学5年生保護者)

ある日学校に行かない宣言をした小5の息子。子どもの感じている息苦しさが痛いほどわかり、行かなくて良い、とすぐに答えました。ですが、思いを受け入れるだけでは、彼にとって必要な時間を親として十分に与えてあげる事は難しいと感じていた時に、ホッとステーションに何う事になりました。

彼の持ち味を理解して下さり、「親子ともども応援しますよ!」と力強く言ってくださった時の安堵と嬉しさは言葉にならない程でした。これからお騒がせな息子ですが、お世話になります!(小学5年生保護者)